

## 第5学年 道徳科学習指導案

平成30年10月31日（水）第5校時

- 1 主題名 誠実な生き方 内容項目 【A 正直、誠実】
- 2 ねらい 大劇場へ行くか少年のところへ行くか自分だったらどちらを誠実と考えるかという学習を通して、誠実に生きることのよさについて理解し、明るい心で誠実に生活していこうとする心情を育てる。  
教材名 「手品師」（出典：「みんなの道徳 5年」学研教育みらい）

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容について

小学校5学年及び6学年の指導の観点は、「誠実に、明るい心で生活すること。」である。これは、第1学年及び第2学年の「うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。」第3学年及び第4学年の「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。」を受けて、中学校での「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。」(A 自主、自律、自由と責任)へと発展する。

この段階においては、自分自身に対する誠実さがより一層求められる。特にその誠実さが自分の内面を満たすだけでなく、例えば、他の人の受け止めに過度に意識することなく、自分自身に誠実に生きようとする気持ちが外に向けても発揮されるように配慮する必要がある。そのことが、より明るい心となって行動にも表れ、真面目さを前向きに受け止めた生活を大切にすることで、自己を向上させることや自信にもつながっていく。

指導にあたっては、一人一人の誠実な生き方を大切にしながら、みんなと楽しい生活ができるようにしていくことが大切である。一方で、よくないことと知りつつも自分の意に反して周囲に流されてしまうことや傍観者として過ごしてしまうことは、決して心地のよいものではなく、後ろめたさから、誇りや自信を失ってしまうことにつながることを考えられるように指導することが必要である。

児童が健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするためには、自分の気持ちに偽りのないようにすることが求められる。また、自己の過ちを認め、改めていく素直さとともに、何事に対しても真面目に真心を込めて、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢をもつことが大切である。

過ちや失敗は誰にも起こり得ることである。そのときに、ともするとそのことで自分自身が責められたり、不利な立場に立たされたりすることを回避しようとしてうそを言ったり、ごまかしをしたりすることがある。しかし、そのような振る舞いはあくまでも一時しのぎに過ぎず、真の解決には至らない。このことによって、他者の信頼を失うばかりか、自分自身の中に後悔や自責の念、強い良心の呵責などが生じる。

それらを乗り越えようとするのが正直な心であり、自分自身に対する真面目さであり、伸び伸びと過ごそうとする心のすがすがしい明るさでもある。このような誠実な生き方を大切にする児童を育てたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、うそやごまかしはいけないことだと分かってはいるが、注意を受けたり失敗したりしたとき、自分の立場を優先に考え、その場しのぎの言い訳を考えてごまかしてしまうこともある。また、「自分はこれをしっかりやる。」と約束したことで、ついなまけてしまったり、「明日でいいや。」とのぼしのぼしにしまったりして、自分で決めた約束でも、守れないこともある。

そこで、児童が今考えている「誠実」について次のようなアンケートをとった。

「正直、誠実」に関する意識調査

(実施日 平成30年9月 38名回答)

1 あなたは、「約束」は大切だと思いますか。

はい・・・38人

いいえ・・・0人

☆なぜそう思ったのですか？

はいの理由

- ・約束は、友達や、人とのつながりを大切にする。
- ・守らないと、自分が後悔する。
- ・守らないと、他の人が困ったり、傷ついたりする。
- ・約束は、人と人との信頼関係を表すから。
- ・約束は、自分を信頼してくれる証だから。
- ・約束は何があっても絶対に守るべきもので、人として大切なもの。

2 今までに「約束」を守らなかったことがありますか。

はい・・・36人

いいえ・・・2人

☆守らなかったのは誰に対してのどんな約束ですか？

- ・兄弟、姉妹や友達に対しての遊ぶ約束。
- ・お母さんとの時間の約束。
- ・先生や班のみんなと忘れ物を減らす約束。
- ・お母さんと宿題を早く終わらせる約束

☆守らなかったのはどんな理由ですか？

- ・習い事や宿題で時間がなくなったけど、相手に連絡できなかった。
- ・遊びに夢中だった。
- ・忘れていた。
- ・急に家の用事ができた。
- ・連絡帳をちゃんと見なかった。
- ・面倒くさかった。

☆守らなかったとき、どんな気持ちになりましたか？

- ・相手に対して、「ごめんなさい。」の気持ち。悪いことをしたと反省した。
- ・どうしよう、相手に迷惑かけちゃうな。
- ・もやもやして、約束を守ればよかったと後悔した。
- ・おこるかな、大丈夫かな、きられちゃうかな、信頼されなくなっちゃうなど心配。
- ・友達は傷ついてるだろうな。
- ・これからはちゃんと約束を守りたい。

3 自分の気持ちに「正直でいること」、自分の気持ちに「うそをつかないこと」は大切だと思いますか。

はい・・・37人

いいえ・・・1人

☆なぜそう思ったのですか？

はいの理由

- ・自分の本当の心が分かる。
- ・相手からも信頼され、自分も楽しく生活できる。
- ・自分に嘘をつかないと、人にも優しくなれる。
- ・自分に嘘をつくと、自分の心の中の龍が弱ってしまうから。
- ・自分もみんなも安心して生きていける。
- ・嘘をつくと、自分の心を傷つける。
- ・自分の気持ちを正直に言えば、相手も自分を分かってくれる。

いいえの理由

- ・自分の気持ちに正直なのはいいこともあるけど、場合によっては本当のことを言わない方がよい場合もあるかもしれない。

4 あなたは、何を大切にこれから生きていきたいと思いますか。

- ・自分とみんなの心の中の龍。
- ・自分の気持ちに嘘をつかないで、自分の心の中の正直な心を大切にしたい。
- ・家族、友達、先生、命、動物、自分の周りにいる人。
- ・自分の心と相手の心。
- ・人との信頼。
- ・前向きで素直な心。
- ・約束を守ること。
- ・人に対する礼儀。
- ・自分の夢。
- ・誰に対しても親切にする。
- ・自分の気持ちに、嘘をつくこととつかないこと、どちらもいつか大事になると思う。

5 あなたが思う「誠実な人」ってどんな人だと思いますか。

- ・何に対しても努力する人。
- ・誰にでも優しくて親切な人。
- ・真面目で、やることをしっかりやる人。
- ・自分で何が正しいか考えられる人。
- ・きちんと前を向いている人。
- ・友達を大切にする人。
- ・約束を守る人。
- ・正直な心を持ち、自分が描く生き方をしている人。
- ・嘘やごまかしをしないで、正直な人。
- ・正しいことをして、正しく生きている人。
- ・自分の気持ちにまっすぐ向き合える人。
- ・真実を言える人。
- ・誰からも信用される人。

アンケートの結果を見ると、児童は、約束を守ることが大切だとしっかり分かっているが、日々の生活の中で自分の楽しみなど自分の都合だけを考え、約束を破ってしまったことがあると自覚している。また、自分の気持ちに正直でいることが大切だと考える理由として、自分に嘘をつくことが、自分の誇りを傷つけそれが相手の信頼を失い正しく生きていくことができなくなるという考えをもっている。反対に、時には正直なことを言わない方がよい場合もあると答えた児童が1名いた。

これから生きていく上で大切にしたいことは、家族や友達、周りにいる人や自分自身、目に見えるものではないが、自分の正直な心や礼儀、前向きに頑張る心や優しさと答えた児童が多かった。自分の身の回りの人を大切にしたい、また自分の心の中で大切にしていきたいことがあると考えている。

また、児童が考える「誠実な人」とは、何に対しても努力し真面目な人、自分で何が正しいか考え嘘やごまかしをしないで正直な心を持ち、自分が描く生き方をしている人、誰からも信用される人、など自分の言葉で「誠実」についてしっかりした考えをもっていることが分かった。

「誠実」を辞書で調べてみると、「真心をもって、人やものに対すること。いつわりがなく真面目なこと。」とある。また「真心」を調べてみると「真実の心。偽りや飾りのない心。」とある。「誠実」とはまず、相手に対して正直に真面目であることが大切だといえる。しかしそれは、自分自身の心に嘘をつかず正直であることが前提だと考える。つまり、自分の心に正直であるからこそ、自分の生き方に誇りをもち、真面目に嘘をつかず生きていくことで、よりよく生きていくことの素晴らしさを感じることができるのである。

そこで、物事を決めるとき、自分の気持ちに嘘をつかず、自分はこういう生き方こそが正しいという人間としての誇りをもつことが大切だと理解し、明るい心で誠実に生活していこうという心情を育てたい。

### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、腕はいいがあまり売れない手品師が主人公である。彼は大劇場のステージに立つことを夢見て日々腕を磨いているが、ある日、ひとりぼっちの男の子に会う。そして、自分の手品を見せることで元気になった男の子と次の日も手品を見せることを約束したが、その夜、友人から電話で大劇場に出るチャンスがあることを知らされる。手品師は迷うが、男の子との約束を選び、翌日男の子の前で素晴らしい手品を披露するという内容である。

手品師が男の子に「きっと来るよ。」と約束したのはどんな気持ちからなのかを考えさせ、自分の手品により元気になったことを喜ぶ手品師の心に共感させたい。その後、大劇場に行くか、男の子との約束を守るか、自分だったらどうするかを考え、子どもたちひとりひとりが考える「誠実」について深めたい。そして、手品師は迷いに迷った末、自分にとっての誠実は男の子との約束を守ることだ、決して後悔はしないと決心し、男の子の前で手品を行う手品師の迷いのない心も味わわせ、自分の考える「誠実な人」についての思いを深め、誠実に生きていこうとする心を育てたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

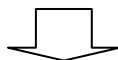
## 4 新和小学校の研究テーマとの関わり

自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きようとする児童の育成 ～仲間と共に高め合い、豊かな心を育てる道徳教育～
---

### 〈仮説1〉

「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「体験的な学習」等、多様な方法で指導を行い、自分の考えを他者と伝え合う活動などを充実させ、児童が主体的に学ぶ授業を実践し、道徳ノートの活用、児童の変容が見取れる評価の工夫をすれば、物事を多面的・多角的に考え、ねらいとする道徳的価値にせまることができ、児童の豊かな心を育むことができるで

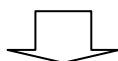
あろう。



仮説1に迫る手立てとして、誰もが話しやすい雰囲気の中で授業に取り組めるよう、児童の発言の際の教師の立ち位置を考えたり、常に称賛の声かけをしたりするなどの工夫を心がける。また、小グループでの話し合いを取り入れたり、ペアでの役割演技により考えを深めたりすることにより、友達の考えを聞きながら自分にない考え方や感じ方を知り、自分の考えを深めさせ、自分の思いを自分の言葉で表現できる場を設ける。さらに、「誠実」についてのアンケートを事前に行い、導入で調査結果を知らせることで課題意識をもたせる。

#### 〈仮説2〉

学んだことの振り返りが常時できる道徳環境の整備、他教科との指導の関連、仲間と共に高め合う場面の設定、家族との関連を図れば、児童の道徳性を養うことができ、児童の豊かな心を育む事ができるであろう。



仮説2に迫る手立てとして、教室の側面に「心の学習の足あと」を掲示し、生活の中で道徳科の授業について考えることができるようにする。学級通信で道徳の授業の様子や子どものワークシートを紹介し、家庭でも道徳科の授業について振り返る場を設ける。また、帰りの会の「友達のよいところ」を発表する際、真面目に頑張っていることについて考えさせる。他教科の授業の中でも、班や全員での活動を通して、正直に生活する大切さを感じ取らせる。

## 5 展開

### (1) 新和7 (セブン) ※学習指導要領・指導方法の工夫より

#### ア 教材を提示する工夫

- ・初めに教材の前半部分を提示し、自分事として考えさせる。

#### オ 動作化、役割演技など表現活動の工夫

- ・心のものさしを用いて役割演技を行い、自分が手品師だったらどうするか、またなぜそうするのかその理由についても考えさせる。

### (2) 学習指導過程

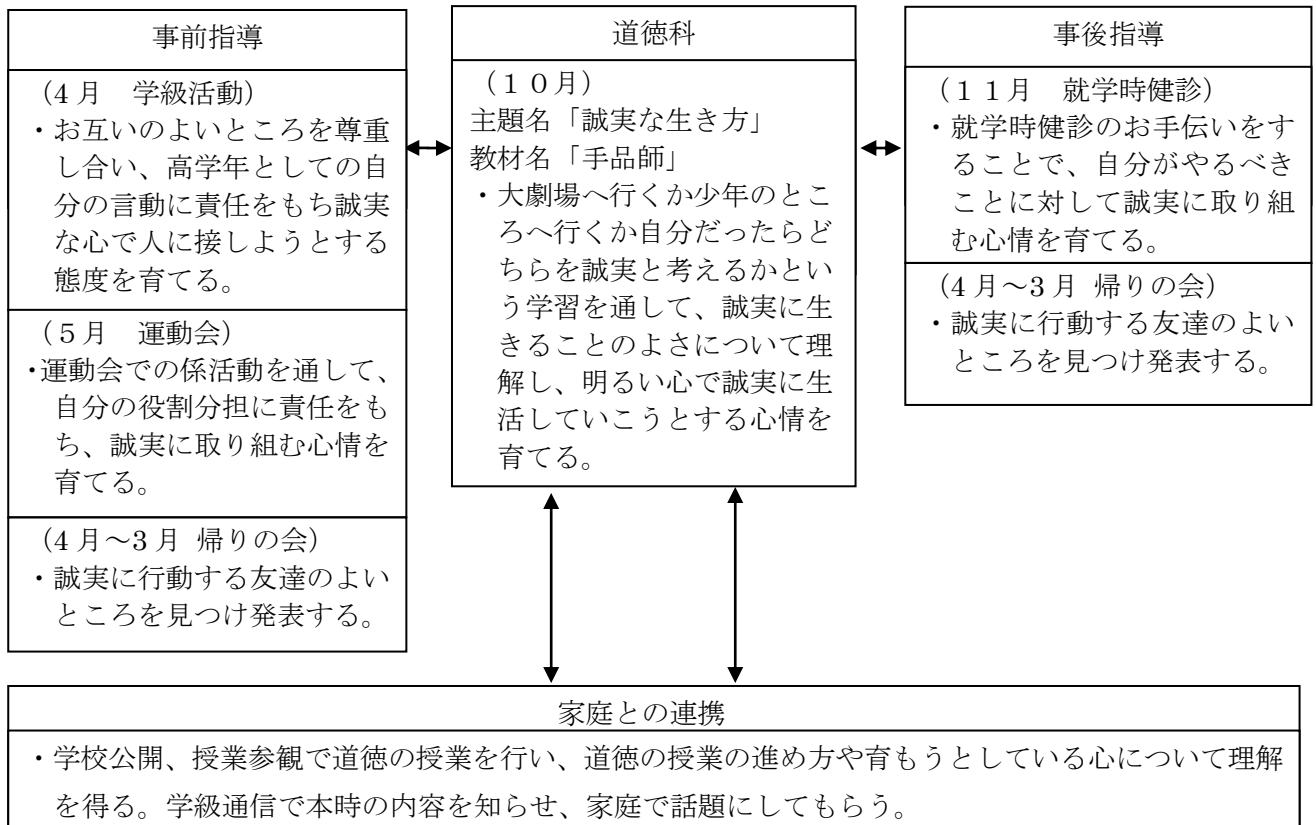
段階	学習活動 主な発問	・予想される児童の発言	・指導上の留意点☆評価の視点 ◆新和7	時間
導入	1 「誠実」についてのアンケート結果を見て、自分の生活を思い起こす。		・アンケートの結果を見せ、「誠実」についての課題意識をもたせる。 ・本時のねらいの価値への関心が高まるようにする。	3
		課題 「誠実な人」ってどんな人だろう。		

展 開	2 教材について、条件・情 況を知る。			6
	条件・情況 主人公 手品師 男の子 ・うではいいがあまり売れない手品師の夢は大劇場のステージに立つこと。ある日お父さんが死んでしまい、お母さんが働きに出てひとりぼっちの男の子に会う。			
	3 教材「手品師」の前半の 読み聞かせを行う。		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">◆ア教材を提示する工夫</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を理解しながら、前半部分のみ、範読（判読）を聞かせる。</li> <li>・みんなで話し合いたい心に残ったところにラインを引く</li> <li>・(前半) P 7 4 の 1 6 行までを提示する。</li> </ul>	
	4 話題をもとに話し合いをする。 (1) 手品師が男の子に「きつと来るよ。」と約束したのはどんな気持ちからだろう。  (2) 大劇場での話が来たとき、みんなならどうするだろう。それはどんな考えからだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくは売れてないけどぼくの手品でこんなに喜んでくれてうれしい。</li> <li>・ぼくの手品で男の子を元気にさせてあげたい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">大劇場に行く</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これで夢が叶う。</li> <li>・有名になれば、男の子をもっと喜ばせてあげられる。</li> <li>・男の子、ごめんね。</li> <li>・ぼくのことを推薦してくれた<u>友達の思い</u>にこたえたい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">男の子のところへ行く</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先に約束したのは男の子だから、約束を守る。</li> <li>・行かなかったらせっかく元気になった男の子が悲しむだろう。</li> <li>・大劇場はまたチャンスがあるかも知れない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気をとりもどした男の子を見て、明日も来ようと約束する手品師の心に共感させるようにする。</li> <li>・心のものさしを使い、自分だったらどうするかを考えた後、自分ごととして考えるために「自分だったらこうする。」ということを理由を含めて役割演技をしながらペアで話し合う。</li> <li>・その後、全体で話し合い、友達の考えを聞きながら自分にはない考え方や感じ方を知り、自分の考えを深めさせるようにする。</li> <li>・友達の考えを聞き、自分の考えが変わった児童は、心のものさしの位置を変えてもよいことを伝える。</li> </ul>	28

<p>展開</p>	<p>(3) どちらの考えにも共通する、大切にしているものとは何だろう。</p> <p>5 教材の後半部分 (P74 の 17 行目から最後まで) の読み聞かせをする。</p> <p><b>補</b>手品師は、男の子の前でどんな気持ちになっているだろう。</p> <p>・「誠実な人」ってどんな人だろう。</p> <p>6 これからの自分を考える。</p>	<p>男の子には今、ぼくが必要だ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらの考えも、相手の心を大事にしているけれど、自分の心も大事にしている。</li> <li>・後になって後悔しないために、じっくりと考え、自分の正直な心を大切にしている。</li> </ul> <p>・これがぼくの選んだ道。男の子の笑顔が、ぼくが望んでいたものだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の心に正直にまっすぐに生きる人。</li> <li>・どちらかを選ぶのに迷っても、自分の言葉で自分の心をしっかり伝え、後悔しないで生きる人。</li> <li>・相手のことを考えながら、自分の心にウソをつかない人。</li> </ul> <p>・今日の学習を通して、これから自分はどのよ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの考えも、「生きる上で自分が大切だと思うこと。」「これで自分は後悔しない。」「自分の心・友達の手・男の子の心をそれぞれ大切にしたい答えがこれだ。」という、それぞれが考える「誠実」であることに気づかせる。(誠実：真心をもって、人やものに対すること。いつわりがなく、真面目なこと。)</li> </ul> <p>☆大劇場か男の子か、根拠を基にしながら自分だったらと考え、「誠実」について多面的、多角的に話し合い、考えを深めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手品師が考える「誠実」を認め、自分が考える「誠実」についての考えをはっきりさせる。</li> </ul> <p>・書く活動を通して自分の生活を見つめ直し、「誠実」に生</p>	<p>5</p>
-----------	--	---	--	----------

		うに生きていきたいか を書く。	きることの大切さに気付か せる。  ☆誠実に生きるよさについて、 自分のこれからの生き方を もとに考えている。	3
終 末	7 教師の説話を聞く。		・誠実に生活していこうとする 意欲を高める。	

## 6 他の教育活動との関連



## 7 評価の視点

### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・主人公に自分を投影しながら考え、話し合っている。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・誠実に生きるよさについて自分との関わりで考えている。





**「手品師」**

名前

○今日の学習を通して、「誠実な人とはどんな人か」について考えたことをもとに、自分はこれからどのように生活していきたいか、あなたが考えたことや、感じたことを書きましよう。

自己評価		
ウ、自分のことについてふり返ることができた。	イ、友だちの意見をよく聞いた。	ア、主人公の身になって考えた。
A B C	A B C	A B C

# 教材吟味表

教材名：手品師 (出典「みんなの道徳 5年」 学研教育みらい)

スタートの条件・状況 (登場人物等) (主人公：手品師・男の子・手品師の友人)

- ・うではいいがあまり売れない手品師の夢は、大劇場のステージに立つこと。
- ・ある日、お父さんが死んでしまい、お母さんが働きに出てひとりぼっちの男の子に会う。

【話題につなげたい場面や気持ちの変化、キーワードや話し合いの柱など】

あるところ	<p><b>課題</b> 「誠実な人」ってどんな人だろう。</p> <p>腕はいいがあまり売れない手品師がいた。→暮らし向きは楽ではない。→その日のパンを買うのもやっと (大きな劇場で、華やかに手品をやりたいなあ。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大劇場で手品をやるのが僕の夢。僕には皆を楽しませる腕もある。いつか夢を絶対に叶えたい。</li> </ul> <p>それでもいつか大劇場に立つために腕を磨く毎日。</p>	
ある日	<p>小さな男の子がしょんぼりと道にしゃがみこんでいるのに出会う。</p> <p>「どうしたんだい。」手品師は思わず声をかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしたんだろう。何かあったのかな。</li> </ul> <p>男の子→(さびしそうな顔)お父さんが死んだ後、お母さんが働きに出てずっと帰って来ない。</p> <p>「そうかい。それはかわいそうに。それじゃ、おじさんが面白いものを見せてあげよう。だから元気を出すんだよ。」→手品師は帽子の中から色とりどりの美しい花を取り出したり、ハンカチの中から白い鳩を飛び立たせたりした。</p> <p>→男の子は明るさを取り戻し、<b>すっかり元気</b>になった。</p> <p>「おじさん、明日も来てくれる。」→男の子は大きな目を輝かせて言った。</p> <p>「ああ、来るともさ。」</p> <p>「きつとだね。きつと来てくれるね。」</p> <p>「きつとさ。きつと来るよ。」</p>	手品師が男の子に「きつと来るよ。」と約束したのはどんな気持ちだろう。
その日の夜	<p>大きな町に住む仲の良い友人から電話</p> <p>→「いい話がある。今夜ぼくの家に来い。」</p> <p>「急にどうしたんだ。」</p> <p>「<b>大劇場に出られるチャンス</b>だぞ。<b>二度とないチャンス</b>だ。これをのがしたら<b>もうチャンスは来ないかも</b>しれないぞ。」</p> <p>(友人の話によると)今、評判のマジック・ショーに出演している手品師が急病で倒れ、手術をしなければならなくなったため、その人の代わりを探している。</p> <p>「そこで、ぼくは君を推薦したというわけさ。」</p> <p>「あ、一日のぼすわけにはいかないのかい。」</p> <p>「だめだ。手術は今夜なんだ。明日のステージに穴をあけるわけにはいかない。」</p> <p>→手品師の頭の中</p> <p>大劇場の華やかなステージにスポットライトを浴びて立つ自分の姿。このチャンスをのがしたら、二度と大劇場のステージには立てないかも知れない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これで僕の夢が叶うんだ。有名になれば、男の子をもっと喜ばせてあげられるぞ。男の子、ごめんね。でもぼくのことを推薦してくれた友人の思いにもこたえたいんだ。</li> <li>さつき会った男の子の顔。明日は男の子がぼくを待っている。</li> <li>・先に男の子と約束したんだ。行かなかったら、せっかく元気になった男の子がどれだけ悲しむだろう。大劇場はぼくが頑張ればまたチャンスがあるかも知れない。男の子には、今ぼくが必要なんだ。</li> </ul> <p>迷いに迷う</p> <p>どちらの考えにも、「これが生きる上で、ぼくが大切だと思うこと。自分が選んだ道を決して後悔しない。これからもこうやってぼくは誇りを持って生きていく。」という共通の思い。</p> <p>「そっちを今夜たてば、明日の朝にはこっちに着く。待ってるよ。」友人はすっかり決めこんでいる。</p> <p>手品師は<b>きっぱりと「せっかくだけど行けない。」</b></p> <p>「どうしてだ。待ち望んでいた大劇場に出られるのに。」→「ぼくは明日約束したことがあるんだ。」</p> <p>「そんなに大切な約束なのか。」→「そうだ。ぼくにとっては<b>大切な約束</b>なんだ。<b>君の友情にすまない。</b>」</p> <p>「君がそんなに言うなら、きつと大切な約束なんだろう。」</p> <p>残念だが、また会おう。」</p>	大劇場の話が来たとき、みんなならどうするだろう。それはどんな考えからだろう。
翌日	<p>小さな町の片隅で、たった一人のお客様を前にしてあまり売れない手品師が、次々と素晴らしい手品を演じていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これがぼくの選んだ道だ。後悔はしないぞ。自分の心をじっくり見つけて出した答えなんだ。男の子よ、さあ、ぼくの手品を思いっきり楽しんでね。男の子が喜んでくれることが、ぼくにとっての最高の拍手なんだ。ぼくは自分の手品とぼくの生き方を誇りに思っている。ぼくはここで手品をやることができよかった。</li> </ul> <p><b>誠実</b>：真心をもって人やものに対すること。いつわりがなく真面目なこと。(真心：真実の心。偽りや飾りのない心。)</p> <p><b>誠実な人</b>→自分の心に正直にまっすぐに生きる人。どちらを選ぶか迷っても、自分の言葉で自分の心をしっかり伝え、後悔しないで生きる人。自分の心に嘘をつかないで生きる人。</p>	「誠実な人」ってどんな人だろう。

ねらいとする人間像：内容項目 [A 正直・誠実]

- ・大劇場へ行くか少年のところへ行くか自分だったらどちらを誠実と考えるかという学習を通して、誠実に生きることのよさについて理解し、明るい心で誠実に生活していこうとする児童。